

# 創建

そうこん

巻頭言：森山修治・1

卒業生の活躍・2～3

大学院特別講義聴講報告（八木真爾先生）・4

J I A 東北学生賞受賞／南陽市文化会館見学会・5

第58回日本大学工学部学術研究報告会・6

発表論文・7

学術論文／教室ニュース・8

2015・12・15 VOL.50 NO.3 (通巻157号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

## ◆はじめに

建築の安全に対する信頼が揺らいでいる。2005年の姉齒元一級建築士による耐震偽装問題に続いて“杭打ち工事会社”の施工管理者による杭打ちデータの改ざんが発覚した。当初は耐震偽装問題と同じように個人のモラルの問題かと思われたが、意外な広がりを見せ、一企業にとどまらず業界全体の体質の問題に発展しつつある。耐震偽装は第三者の専門機関による図面確認が可能であり比較的容易に判断できる問題であったが、竣工後の建物の杭が強固な支持層に実際に達しているか否かを知るには、目視や図面では確認できずボーリング調査等が必要であり多額の費用がかかる。また、仮に施工不良が確認できたとしても是正工事は容易ではなく、深刻な問題である。これは、近年の建設工事の細分化・分担化と無関係ではないのでそれについて考察する。

## ◆防災分野の設計の細分化

建築設計の分野は大きく分けて建築意匠・構造・設備に三分され、防災という独立した分野は一般的には存在しない。また、一口に防災といっても対象となる災害は地震・雷・火事・津波・洪水・火山噴火・テロと多岐に渡る。地震を例にとっても、構造は鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造あるいは耐震・制震・免震と分かれ、天井落下対策は建築意匠の担当となり、天井設備機器や配管の落下防止は設備分野となる。インフラ途絶に対応した燃料や水の備蓄も設備の分野となる。火災の場合は避難経路や内装不燃化の計画は建築意匠、耐火性については構造、排煙設備や消火設備は機械設備、火災報知設備は電気設備の担当となる。津波や洪水・火山噴火・テロについては災害の規模や被害について整理すらされていない。このように防災に関しては一つの災害に対して担当分野が細分化されている。

## ◆巨大化に伴う設計・施工の細分化

建物が巨大になるほど、仕事が細分化され建物の全体性能を把握できる人間が皆無となる。たとえば、超高層ビルのケーブル火災の恐ろしさを描いた1975年の米国映画“タワーリング・インフェルノ”でポール・ニューマンが演じた設計技師のように超高層建物を隅々まで知り尽くし、火災発生箇所に電源を供給している電力ブレーカーを適切に遮断できるようなスーパーマンは存在しない。実際の巨大建築物の設計は細分化や施工の下請け・孫請けによる分担化が進んでいる。この細分化と分担化の怖さは他者の分担部分の内容・精度がチェックしにくいこと、分担作業の隙間に補いきれない穴が生じや

れば結果が現れない点である。たとえば空調設備は、猛暑や冷夏あるいは厳冬や暖冬等の多少の違いはあっても、季節が一周する一年以内には結果が判明する。給排水設備に至っては、不具合は竣工直後に水漏れや断水となって現れる。一方、防災は対象となる災害が発生しない限り結果が現れにくい。南海トラフ大地震の周期は100～200年と言われ、一般的な建築物の火災発生率は、年間1000施設あたり1件（平成25年度版消防白書による）と地震よりもさらに低い。建物のライフサイクル（一生）のうちに遭遇するとは限らない事象である。防災は被害予防策であり建物や施設、事業性あるいは社会的信用にかける保険といえる。

## ◆コミショニング（性能検証）の必要性和個人のモラル

最近の建築設備の発注図には竣工後数年にわたる性能検証の項目と方法を記載し、工事の一部としてコミショニングを義務付けることが多い。通常、3年間にわたって建築主・設計者・施工者が定期的に会議を実施し、建物のエネルギー消費量や温度・湿度の実績値と設計想定値を比較する。実績値が設計要求を満たさない場合は原因を特定し、改善策を立案・実施し効果を確認している。防災についても同様の検証が必要であり、その場合、様々な分野の専門家が相互に仕事の完成度や精度を確認する必要がある。特に杭打ち工事のような竣工後の改善が困難な工事については、施工段階において施主・設計者・施工管理者、あるいは第三者を含めた品質確認会議が必要であろう。優秀な設計者・技術者であるには、個人のモラルや技量を高めることは当然であるが、他分野の仕事内容の理解も求められる。大学の授業は建築を多方面から学ぶ絶好の機会であり、是非、幅広い興味を持って学んで欲しい。

## 揺らぐ建築の 安全・安心

教授 森山修治

すいこと、さらには責任感の欠如につながりやすいこと。杭打ちデータの改ざんは、これらが表面化した問題である。

## ◆建築設備と防災の共通点と相違点

私の専門は建築設備と防災であり、この二つの分野には共通点が多い。建築設備と防災工学、あるいは建築環境工学と火災工学は基本理論は同じである。火災の延焼は熱の移動によるもので理論は建築環境工学で学ぶ伝導・対流・放射であり、火災に伴う煙拡散は熱い空気の移動でありベルヌーイの定理やナビエ・ストークス方程式で解析できる。建築設備と防災が最も異なる点は建築設備の設計・施工は竣工直後に結果が明らかになるのに対して、防災に関することは対象となる災害が発生しなけ

## 卒業生の活躍紹介

総合建設業・施工管理職

### 「ゆとり世代と施工管理」

平田 康太



私は2010年に大学を卒業し、今年で施工管理職6年目になった。皆さんもご存じのとおり施工管理職は「激務」で、今でも「3K（暗い、汚い、危険）」などと言われることがある。私は、世間で言う“ゆとり世代”ではあるが、今年で6年目を迎えることができた。これは、この仕事のやりがいと、仕事を通して関わってきた方々のおかげであると言える。

鹿島に入社して1ヶ月間は本社や各地で研修を行い、5月の連休明けに最初の現場（横浜）へ配属になった。最初の現場ということで、初めは上司と共に現場を巡回しながら現場の流れを覚えていった。その後、コンクリート・防水・内部建具等の工事を担当した。担当した工事は失敗の連続だった。建具の高さを間違えて床の手直し。外壁タイルをコンクリートで汚し再清掃等、多くの失敗があり、その度に上司や職人から怒られる日々が続いた。それでも一方では、上司や職人との仕事やプライベートでのフォローがあったので乗り越えてきた。

建物の完成を迎えた時の感動。自分が携わった建物が今でも世の中にあるということ。これらは、この仕事の大きな魅力である。これが「激務」と言われる中で、初めての建物完成までなんとか携われた理由である。

2年目から今日まで福島現場に関わってきた。郡山の総合病院・看護学校で約3年間。次の鏡石の工場では1年間従事した。どれも始めから終わりまで自分が携われた現場だ。これらの現場でも失敗は数多くあった。

そんな中でも自分の計画で職人たちをうまく回せた時や、計画が自分の予定通りだった時は特にうれしかった。また、職人から「平田君の頼みならやるよ」と言ってもらえた時は、自分のやってきた仕事は間違っていないという自信を持って仕事ができるようになった。今でも郡山から新幹線に乗る時、自分が建てた総合病院や看護学校が見えるので、いい思い出や悪い思い出が思い出され、いい意味で心がむず痒い。

施工管理に限らず、どんな仕事でも大変なことはたくさんある。「激務」・「薄給」・「単純労働」。その中で自分は何を優先していくか。就職活動では何が自分にとって大切なかを見極めることが大切だ。私にとっては、建物を世の中に残せること。職人を始め、設計者・発注者など幅広い人びととの関わりを持てること。こうしたやりがい「激務」と言われても続けていける理由である。

（ひらた こうた）

#### 略歴

2010年 建築学科卒業（倉田研究室）  
2010年 鹿島建設株式会社 入社



新幹線の車窓から眺める総合病院・看護学校

サービス業・意匠設計職

### 「つくり続けること」

間田 真矢



私は大学を卒業して、アトリエ設計事務所で5年間の実務経験を積んだ後、独立しました。設計事務所という仕事がキツイというイメージがあると思います。確かに苦しい場面もありますが、建物が竣工したときの達成感他では味わえないものです。そして何よりもお客様が喜んで建物を使う様子や声を聞くと、この上なく嬉しく、この仕事をしていて良かったなと思います。独立してから8年になり、様々な用途の設計依頼が来るまでになりましたが、その中でも思い出に残っている仕事を紹介したいと思います。

事務所の大きな転機となった自邸「ミンナノイエ」は、当時の自分の状況を考えると家を建てること自体が分不相応かとも思いましたが、衣食住の他の部分を削ってでも、自分が設計で目指すべきものが明確に伝わるものをつくろうと思いました。自分の全てを出そうと、毎日模型をつくっては考え、また別の案をつくるという日々を送りました。その結果、狭小住宅ながら家の中心に高さ6mにもなる木が植わった、今までに誰も実現したことのない住宅となりました。後になってみるとこのアイデアは大学2年生の住宅の課題で既に考えていたもので、自分の根この部分はずっと変わっていないのだと思いました。この住宅は海外のメディアも含めて多くの雑誌などに取り上げていただき、以降は雑誌を見て下さった方から『「ミンナノイエ」と同じように明るくて開放的な家が建てたいのだけれど、設計してもらえますか?』というような問い合わせが入るようになりました。自分が良いと思うことを信じて努力すれば、周りからも評価されると自信をもつことができました。

あるとき、なんとアムステルダム在住の方から連絡があり、現地集合住宅の一室を買ったから改修の設計をして欲しいという依頼でした。海外の建物など設計したことにも不安でしたが、こんな機会は二度と来ないと思い、お引き受けしました。設計案は最初のプレゼンテーションで気に入ってもらいましたが、そこからが大変でした。日本の施工業者とは施工精度など比べものにならない現地の業者に、自分が求めるクオリティの建物をつくってもらうために、私は2か月間現地に常駐し毎日現場に通いました。施主の奥様に通訳となってもらう時は業者と日本語で喧嘩しながら、何とか自分が納得できるものができました。

設計の仕事は妥協せずつくり続けていくことで、つくった建物自体が次の仕事を引き寄せてくれます。設計の仕事を目指す人は、それが学生の課題から既に始まっていると思って、常に妥協することなく自分のベストを尽くして下さい。そうすれば、自分が理想に思う姿にだんだんと近づいていくと思います。（まだ まや）

#### 略歴

2000年 建築学科卒業（土方研究室）  
2000年 象設計集団入社  
2002年 香山壽夫建築研究所入社  
2007年 MAMM DESIGN 一級建築士事務所設立



ミンナノイエ



アムステルダムの集合住宅

製造業・商品企画職

## 「好奇心と挑戦」

高 桑 健 一



学生時代は、建築士を夢見て、学生コンペや製図、模型作りに没頭していた。

いざ就職活動となり、皆と違うコトがしてみたいと感じていた頃に、日本武道館で行なわれたオール日大の就職説明会にて「建材メーカー・大建工業」の募集を見つけた。最初は、建材メーカーと聞いてもピンとこなかったが、建築はもちろん、化学、林産、機械、電気、医療等、様々な要素を取り入れている業務の幅広さに興味を持ち、建材メーカーの門を叩いた。

入社してすぐに、2年後の建築基準法改定に向けて、低VOC商品や24時間換気システムの開発担当となる。換気システムの開発では、電機メーカーや部材メーカーと協業で多数のオリジナル商品を開発・発売した。多くの人との出会いに支えられながら、まさに寝る間も惜しんで開発業務に没頭した。また、音響、電気、高齢者向け建材等、多分野の開発に携わることができた。但し、発売前の審査にクリアできず、お蔵入りした商品も数多く、審査を取り纏めるマーケティング部をちょっと恨んだり……。もちろん、何でも発売できる訳も無く、企画の練り込みが重要である。

2012年にはマーケティング部へ転勤となり、会社全体の企画開発に絡むことで、改めて、自社技術に気付き、視野も広がったと感じている。

今年、大建工業は創立70周年を迎え、自社のこれまでの技術を見直して、新たな分野への展開を模索している。ここでは、日大工学部ネットワークも生かし、様々な分野で働く大学時代の友人達からアドバイスももらったり、試作品の評価会に参加してもらったりと、日大の仲間とは仕事でもプライベートでも大切な関係として付き合い合ってもらっている。皆さんも、共に過ごす時間が長い仲間とは、就職活動に限らず、様々な相談をすることであろう。日大の仲間とは、そんな関係がこれからも長く続くと思う。

採用試験における面接やグループセッションでは、近年、人事担当以外の社員も参加して、採用業務に携わるケースもある。大建工業でも、一部でこれを用いており、私も参加する機会がある。自身の体験や、やってみたいコトを楽しそうに、好奇心を持ちながら話したり、私に問いかけてくる学生の方は魅力的に感じる。就職活動では、常に好奇心を持ちながら、挑戦してもらいたい。

(たかくわ けんいち)

略歴

- 2001年 博士前期過程建築学専攻修了(佐藤研究室)
- 2001年 大建工業株式会社入社 サウンド&アメニティ部 開発課
- 2012年 同社マーケティング部 商品企画機能グループ

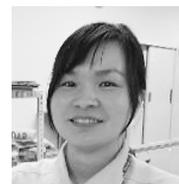


DAIKENテクノビジネスフェア2015

公務員・建築職

## 「建築職の日常」

三 浦 泉



地元の福島を離れ、荒川区役所に就職して6年目になりました。現在は建築指導課で仕事をしています。入区してはじめての職場は営繕課でした。建築職(技術職)は、事務職と違って異動の年数が少し長いので、4年~6年で異動となることが多いです。近年は女性の建築職も増えていますが、福利厚生がしっかりしているので育児休暇を取得している先輩職員もいます。

建築指導課では細街路を担当しており、窓口対応や細街路の現場調査を行っています。区内には、幅員が4m未満の道路が多くあります。道路は、災害時において避難路として重要な役割を果たすため、細街路の拡幅整備を進めています。一度に整備できる道路の長さは短いですが、区民の方から「道路が広がって安心して通れるようになった」といった声を頂いたときは、とても嬉しく感じました。時には厳しい声を頂くこともありますが、相手の話に耳を傾け、行政の取り組みについて理解してもらえるよう、丁寧に説明することを心がけています。

営繕課では主に、改修工事の図面作成及び積算、工事の現場監督などを行っていました。設計事務所や施工業者との仕事が営繕課での主な業務なので、区民と接する機会はほとんどありませんでした。しかし、建築指導課に異動し、初めての窓口職場にとっても戸惑ったことを覚えています。当初は先輩職員と一緒に窓口に出ることが多かったのですが、積極的に窓口に出て回数をこなすことで自信を持つことができたと思います。

建築職は、庁舎内での事務作業と現場に出る頻度が半々になることが多いです。私の勤める荒川区は、区内の面積が小さいので、現場に出る際は、ほぼ自転車で移動します。現在は、細街路を目指して移動するので、迷子になることもしばしばです。しかし、区内の隅々まで自転車で移動するので、区内の様子を知り、区民生活の現況を把握することができます。

私は、就職先を決めるにあたり、地元の福島にするのか、東京にするのかとても悩んで決めました。荒川区に決めた理由は、今まで住んだことのない場所で、都市部が抱える問題に、地方出身者として挑戦してみたいと思ったからです。日々、様々な問題がありますが、ひとつひとつ解決策を考え仕事に取り組んでいます。街づくりの仕事は、成果が出るまでに時間がかかります。しかし、少しずつ変わっていく街の様子を身近で感じられることが建築職の魅力の一つだと思います。

(みうら いずみ)

略歴

- 2010年 博士前期課程建築学専攻修了(市岡研究室)
- 2010年 荒川区役所 入区



細街路の現場調査

## 大学院特別講義聴講報告

## 「歴史的建築物の保存活用における防災計画」(八木真爾先生)を聴講して

大学院博士前期課程1年 清水川 慶 堯

平成27年7月24日、八木真爾先生(株式会社佐藤総合計画)による大学院特別講義、「歴史的建築物の保存活用における防災計画」が行われた。組織設計事務所で建築の保存の実務に取り組み、そうしたテーマで博士号まで取られた先生のお話は、まさに建築の長寿命化が求められる今という時代を反映したタイムリーなものであった。

講義はまず、私たち学生に向け、歴史的建造物の全体像を示すところから始められた。城や社寺や民家といった、「いかにも」な歴史的建造物だけでなく、現在では、庁舎やオフィス・工場をはじめとする鉄筋コンクリートの近代建築までもが含まれるようになってきたことが述べられた。

そしてそれらを2つに分け、前者のみが文化財とされたこれまでは、それらを後世に残すことができればよく、せいぜい使い道は見学に留まっていたのに対して、後者が文化財になってきた近年では、一般の建物としての活用が模索され始めた。つまり、文化財に求められるものが凍結保存のみから、活用も加わりつつある、というのである。

確かに、古い建物には、装飾がふんだんに施されたものをはじめ、現代建築にはない魅力に富むものが多い。そうは言っても、活用となると果たしてどうなのか。様々な困難が横たわるだろうことを、冒頭から想像させられることになった。

これに続いて先生からは、静かな口調とは裏腹に、その困難が次々と数え上げられていく。まずは、構造についても、安全についても現在とは異なる基準。バリアフリーなんて概念はなく、防災に求められるレベルも雲泥の差である。

何から何まで今とは違う設定で建てられた物を、活用するとなったとたんに、今の基準に合わせるものが求められるのだ。それでも、「歴史的建造物だから安全は大

目にみてよという主張は通用しません！」という言葉には、保存と改修の両立に立ち向かう実務家の覚悟と力強さが感じられた。何よりその際、そもそも残したい意匠に手を加えざるを得ず、折角の価値を損なうかも知れない悩ましさも伴う。

しかも、それによって費用も手間もかさみ、「いっそ解体を」とされかねない難しさもある。理解を得るには価値が一般の人に分かるように示される必要があるが、装飾満載で饒舌な様式建築はまだしも、時代が下りるにつれて登場してくる無口なモダニズム建築では、そもそもその価値を理解してもらおうのが至難の業だという。設計者とは何とも辛い立場である。

その、考えただけでも超えるべきハードル満載のものを、先生はどうやらいくつも実際に手がけてこられたらしい。

後半は、そうした改修事例と先生が採られた具体的な手法の紹介である。戦前の建物ではしばしば、玄関ホール廻りに大階段が鎮座する。意匠的には重要なこの大階段があんがい曲者で、改修の上では厄介な存在になる。その厄介者の意匠的な価値を保ちつつ、どのように必要な防火設備を施したのか等々が披瀝された。こうしたノウハウは、実務家にも聞いていただきたいような、学生が聞くだけではもったいないような内容である。

最後に先生は、それでもまだ戦前の建物はマシだと言われた。階高も高く、改修の際の余裕があるから、と。尋ねると、戦後の建物の改修には、まだ携わられてはいないとのこと。戦後のミニマル・デザイン、最低限度ギリギリの設計が施された時代の建築は、改修する上では、階高も低く、それゆえに難易度も増す。たいへん困難な仕事であることは想像に難くない。にもかかわらず先生は、穏やかな笑みをたたえつつ、「やったことはないが、是非やってみよう」とお答えになったのが印象的で、プロの矜持を感じた講演であった。

## 1.2 文化財も使われるようになってきた

## ②一般建物と同機能で使われているタイプ



活用され始めた文化財

## 1.3 一般用途で使われている歴史的建築物

## 【小樽 銀行をホテルに改修した例】

銀行は地方の都市にもかなり残る

外観 内観



銀行をホテルに改修した事例

## 【防火区画】

## 【性能設計(避難安全検証)】

最初の実例・日本工業倶楽部会館の階段



安全な避難を踏まえた防火区画の設定

## J | A 東北建築学生賞受賞者の声

奨励賞・みやぎ建設技術センター賞受賞

作品名：建築のチカラ -カンショウをてがかりに-

3年次生 神子小百合

私は建築を学びはじめた頃から、公共施設のような比較的大きな建築に興味を持っていましたので、それらの建築計画・設計や空間のあり方を時間を掛けてスタディした作品を評価して頂き、今回このような賞を頂いたことは、大変嬉しく思います。

一般の人たちの建築への理解を促すためのミュージアムという課題に対応して、建築の機能をおさめながらも、周囲の既存施設との関係を考えて外部空間のつくり方や内部と外部の緩衝空間のつくり方に重点をおいて、作品をつくり上げたつもりです。内部のプログラムはもとより、そのような空間のつくり方が公共の建築物の魅力を高めると考えたからです。その中で特に意識したことは、過度に主張はしないけれど、居心地の良い場所をつくる現代的なデザインで、人と建築との距離を近くして、街の新しい象徴をつくり出すイメージでした。

それらはプレゼンテーションボードにおいては、ある程度表現できたように思いますが、審査の当日の発表・質疑応答ではプレゼンテーションができた部分と今一步の部分がなかったように思います。作品とそれを説明できる言葉のバランスの大切さなど、今回のプレゼンでの経験を今後の糧にしてゆきたいと思います。

最後になりましたが、ご指導賜りました先生方や、お手伝いして頂いた先輩方に心から感謝申し上げます。



特別賞受賞

作品名：F-SQUAREの可能性 -積極的受動の空間創造-

4年次生 大友勝多

今回のコンクールに出させて頂いた作品は、「フクシマを変える建築」という課題に応えるものでした。私は、地元の福島市の駅前の中心市街地にある広場を敷地として、今後の更なる復興に向けて、地域レベルでのコミュニティケアも含め様々な活動を受け止められる施設を計画・設計しました。具体的な操作としては、広場周辺の建築物や街路といった身近な要素を手掛かりにしながらも、空間自体は周辺には少ない内・外部の空間が曖昧で利用の自由度も高い建築を目指しました。

結果的に、賞を頂けたことは嬉しく思います。一方で、プレゼンテーションでは、自分が大事にした「無理が少ないことの可能性」を、審査員の方々に十分に伝えられなかった部分があったように思います。そのような伝わり方も含めて、最終的な評価につながることを再認識できた良い機会でもありました。

会場がメディアテークであったこともあり、学内の教室とは違う独特な雰囲気を体験できたことも貴重でした。その中で、他大学の学生作品やその考え方を、生で見聞きできたことは、学生時代だけでなく社会人になっても役立つ経験ができたような気がします。今後活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、ご指導頂いた先生方や院生の方々に、この場を借りて改めて心から感謝申し上げます。



## 大規模木造の最先端を見て

3年次生 川島由梨

10月16日、この秋、山形県に完成した南陽市文化会館（設計：大建設計、2015年）の見学会に、32名の建築学科有志で参加しました。

かつて“木の国”だった日本では、戦後、木造は長く禁忌の対象となり、積極的な研究・開発が行われないままでした。

「その木造が近年再び注目を浴びている。1970年代に北米から集成材を用いた工法が伝わったのを機に、改めて開発が始められるようになり、今では、公共建築の木造推進策が採られ、次第に大規模なものも造られ始めている。」このように、後学期に履修する木質構造設計法の授業で聞いて以来、そうした木造の最先端を自分の目で見てみたいと、強く関心を抱いていました。今回の見学会は、そのさなかに催されたものでしたので、渡りに船といった形で参加しました。

見学して、まずは、通常ではあり得ないほど露出された木に圧倒されました。これまで法律上も可燃物である木で仕上げるのが許されなかったホールの内部までもが一面本物の木でできており、ロビーには太い柱が林立していました。まるで、あたかも木で包まれているかのような感覚に陥りました。

また、ホールの28メートルという大スパンが木の柱と梁でできている構造も圧巻でしたが、大断面の集成材の上を燃えにくい石膏ボードで幾重にもくるみ、その上に仕上げで天然の木が使われているということにも驚かされました。そうした空間を裏から支える技術、そこに施された工夫について、口頭で説明を受けるだけでなく、実物大の模型も展示されており、目で見てよく理解することができました。

ただ、施設を計画する演習が課される私達建築学科の学生にとっては、一般の利用者の目線だけでなく、裏方の目線も必要だと感じていたため、楽屋などの裏方の見学がなかったことを残念に思いました。

それから、訪れてみてふと、市の規模とホールの規模との関係も気になりました。今年話題になった新国立競技場の議論では規模の妥当性も問われ、これからの時代には、そうした目線も必要だろうと、以前考えたことがあったためでしょうか。

今回の経験で、やはり建築は机に嘔りついて想像しているだけでは不十分だと痛感しました。行って、見て、感じて初めて、振り返って考えて…そうして初めて、「理解」に繋がるのだと思いました。なにより、木造建築自体により興味を抱く貴重な機会となりました。



弦楽合奏を聴く



集合写真

# 第58回日本大学工学部学術研究発表会

日時：平成27年12月5日(土)

## <建築学部会 第1会場：7033教室>

- ・近代の会津若松城の天守復元経緯に関する研究 ー市議会での議論を中心にー ○伊藤隼, 速水清孝, 山岸吉弘
- ・仮設建築としての青柳と古町の舞台 ー南山御蔵入領の農村舞台に関する研究 その1ー  
○橋本朋予, 伊藤隼, 清水川慶亮, 速水清孝, 山岸吉弘
- ・舞台の仮設と常設の選択要因に関する一考察 ー南山御蔵入領の農村舞台に関する研究 その2ー  
○清水川慶亮, 橋本朋予, 速水清孝, 山岸吉弘
- ・風力発電装置のナセル内機械音の抽出 ○石井孝佳, 濱田幸雄
- ・集成材床スラブの重量床衝撃音遮断性能に関する実験的検討 ○村上悠, 濱田幸雄
- ・住民主体の景観まちづくりに関する研究 ー只見町の景観協定締結に向けた取り組みについてー  
○薄井良佳, 土方吉雄, 三浦金作
- ・公園内における移動イスの設置方法に関する研究 ー分散配置の案内看板設置方法による利用ー  
○佐々木基, 土方吉雄, 三浦金作
- ・中心市街地における遊休不動産の利活用に関する研究 ○佐藤いちか, 市岡綾子, 三浦金作
- ・地域活性化の新たな起点となる建築提案とその評価に関する研究  
ー福島県内の過疎地域のまちづくり活動を事例としてー ○小林拓也, 浦部智義, 渡邊洋一
- ・地域交流施設の計画及び運営に関する研究 ー福島県内の山間過疎地域における調査分析ー  
○樋口卓史, 浦部智義, 芳賀沼整, 滑田崇志

## <建築学部会 第2会場：7034教室>

- ・2011年東北地方太平洋沖地震による日本大学工学部16号館の振動性状変化の検討  
○金子真大, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・日本大学工学部16号館における振動性状と地盤の影響に関する検討 ○須藤尙, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・1質点系モデルを用いた動的測定精度の検討 ○苫米地佑大, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・日本大学工学部情報研究棟および周辺地盤における地震動観測  
ー2011年東北地方太平洋沖地震による振動性状変化の検討ー ○栗岡亮平, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・壁土の二オイ吸着に関わる基礎実験 その1 ○浦憲親(金沢工大)
- ・鉄骨置屋根構造に対する耐震診断手法の検証 ○浅里和茂, 清水健次, 星小百合, 千葉正裕, 日比野巧
- ・鉄骨置屋根形式建屋における屋根支持部の補強方法に関する研究  
○清水健次, 浅里和茂, 千葉正裕, 日比野巧, 星小百合
- ・面材貼付けによる木質耐震壁に関する実験的研究 ○長田貴明, 野内英治
- ・弾性梁の理論とその応用(1)基礎式とその一般解 ○倉田光春(日大工・上席研究員), 前島克朗, 野内英治
- ・弾性梁の理論とその応用(2)剛性方程式とその検討 ○前島克朗(五洋建設株), 倉田光春, 野内英治
- ・Evolutionary Ant Colony Optimization(EACO)を用いたトラスのトポロジー最適化 ○原崇太, Buntara S.Gan
- ・Rayleigh-Ritz法を用いた多自由度振動方程式の動的縮小法に関する研究 ー2次高次項を考慮する動的縮小法ー  
○児玉亜由美, 倉田光春, Buntara S.GAN
- ・BESO法による連続体構造物の位相最適化 ー動的問題への適用ー ○柳谷諒太, Buntara S.GAN
- ・竹補強セメントモルタルの曲げ性状に及ぼす竹補強材用表面処理剤の影響 ○齋藤俊克, 我喜屋宗満, 出村克宣
- ・ポリマーセメントモルタルの強さ性状に及ぼす単位ポリマー量の影響 ○我喜屋宗満, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・フライアッシュおよび電気炉酸化スラグ細骨材を使用したジオポリマー硬化体における  
高濃度酸性溶液に対する抵抗性 ○五十嵐祐太, Sanjay PAREEK
- ・シラン系含浸材の高圧注入によるコンクリートの耐久性向上に関する検討 ○尾形雅人, Sanjay PAREEK
- ・超弾性合金を用いた鉄筋コンクリート構造用梁部材に対する全自動自己修復システムの開発  
○上野拓, Sanjay PAREEK
- ・銅スラグを用いたジオポリマー硬化体の基礎的研究 ○高橋広大, Sanjay PAREEK

## <ふくしま復興に関する部会：7014教室>

- ・木造復興住宅に関する研究 その1 小規模コミュニティ型モデルの全体及び各棟の計画概要  
○浦部智義, 宮岡大, 佐藤伸哉
- ・木造復興住宅に関する研究 その2 WOOD ALC構法住宅モデルの温熱特性 ○宮岡大, 浦部智義, 佐藤伸哉
- ・木造復興住宅に関する研究 その3 縦ログ構法モデルの温熱特性 ○佐藤伸哉, 浦部智義, 宮岡大

## 学 会 発 表

\* 届け出があった記事を掲載

## ■2015年日本建築学会大会

日時：平成27年9月12-14日 会場：東海大学平塚キャンパス（神奈川県）

- ・塩化物イオン固定化材混入ポリマーセメントモルタルの防せい性 ○渡辺宗幸, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・竹補強ポリマーセメントモルタルの耐凍結融解性に関する一考察 ○我喜屋宗満, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・ポーラスコンクリートの静弾性係数と動弾性係数の相関性 ○齋藤俊克, 出村克宣
- ・インド産及び日本産フライアッシュを用いたジオポリマー硬化体の養生条件及びスラグ置換率が圧縮強度に及ぼす影響 ○五十嵐祐太, Sanjay PAREEK
- ・自己修復システムを付与したモルタルの鉄筋腐食に対する抵抗性の検討 ○尾形雅人, Sanjay PAREEK
- ・超弾性合金を主筋としたRC梁部材に対するASRSの開発 ○上野拓, Sanjay PAREEK
- ・積層弾性梁理論とその応用 その1 基礎式とその一般解 ○高橋広大, Sanjay PAREEK
- ・積層弾性梁理論とその応用 その2 高次変位梁要素の誘導 ○鈴木裕介, 木村健一, Sanjay PAREEK, 荒木慶一
- ・BESO法による位相最適化の性能比較 - フィルタリングにおける重み関数の影響 - ○前島克朗, 倉田光春, 野内英治
- ・Ant Colony Optimizationの構造最適化への応用に関する研究 - トラス構造最適化への応用とその性能について - ○倉田光春, 野内英治, 前島克朗
- ・低層SRC造建物における耐震補強効果の検討 ○野内英治, 倉田光春, 前島克朗
- ・鉄骨置屋根支柱部の損傷を軽減させる補強方法に関する研究 その1 根支柱部の応答と損傷 ○柳谷諒太・Buntara S. Gan
- ・鉄骨置屋根支柱部の損傷を軽減させる補強方法に関する研究 その2 補強方法とその効果 ○原崇太・Buntara S. Gan
- ・津波火災を考慮した津波避難ビルに関する研究 その1 津波避難ビルの指定状況に関する自治体アンケート調査 ○須藤超, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・津波火災を考慮した津波避難ビルに関する研究 その2 津波避難ビルのあり方と現地調査に基づく実態の把握 ○清水健次, 浅里和茂, 成瀬啓一, 瀬下 守, 曾我和正, 星小百合
- ・病院施設における災害医療の機能低下に関する研究 ○曾我和正, 成瀬啓一, 浅里和茂, 瀬下 守, 清水健次, 星小百合
- ・煙性状変化に伴う歩行速度低下を考慮した避難安全検証法の提案 - 直線型地下街における避難シミュレーション - ○鈴木秀和, 西野智研, 高麗憲志, 城明秀, 野竹宏彰, 近藤史朗, 森山修治, 関澤愛
- ・大規模地下街における避難行動特性の分析 - 他避難者への追従性を考慮した出口到達の考察 - ○城明秀, 西野智研, 森山修治, 鈴木秀和, 近藤史朗, 高麗憲志, 野竹宏彰, 関澤愛
- ・災害時医療提供に係る医療機器及び設備のための消費電力に関する研究 その1 ○関野正人, 井上友理, 堀英祐, 森山修治, 長谷見雄二
- ・災害時医療提供に係る医療機器及び設備のための消費電力に関する研究 その2 ○関野正人, 井上友理, 堀英祐, 森山修治, 長谷見雄二
- ・準寒冷地における夏, 冬のバッドデザイン統合 その4 実験棟(ロハスの家3号)における室内熱容量を用いた温熱環境向上方法の検討 ○片寄慎也, 森山修治, 長谷見雄二
- ・木造小規模コミュニティ型復興住宅モデルの温熱特性 その2 ログハウス工法住宅の夏期の室内熱容量を対象とした分析 ○榎本満帆, 片寄慎也, 森山修治, 岸原良和, 木村謙, 長谷見雄二
- ・木造小規模コミュニティ型復興住宅モデルの温熱特性 その3 木質パネル工法住宅モデルの実測とシミュレーション計算の分析 ○森山修治, 井上友理, 堀英祐, 長谷見雄二, 関野正人
- ・原発近傍に立地する木造住宅の空間放射線量率に関する調査研究 ○井上友理, 森山修治, 堀英祐, 長谷見雄二, 関野正人
- ・東北6県における芝居小屋の調査・研究 東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割についての研究 その4 ○宮岡大, 浦部智義, 長内勇樹, 藤田龍之介
- ・岩手県釜石市に設置された「KAMAISHIの箱」の利用実態から見る災害復興まちづくりハウスに関する考察 ○長内勇樹, 浦部智義, 宮岡大, 滑田崇志, 芳賀沼整
- ・家具からみた小学校のオープンスペースにおける学習環境づくり - 教室周りの造作家具に対する認識と利用状況 - ○佐藤伸哉, 宮岡大, 浦部智義, 滑田崇志, 芳賀沼整, 八木佐千子
- ・東日本大震災における住宅・生活再建プロセスに関する研究 福島第一原発事故被災者への住情報支援に着目して ○佐藤伸哉, 宮岡大, 浦部智義, 滑田崇志, 芳賀沼整, 八木佐千子
- ・アーケードのある街路の空間特性に関する研究 - その7 東西 3 アーケード歩行時の注視傾向について - ○久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 浦部智義, 小林拓也
- ・公園における移動イス設置方法に関する研究 - その5 エリア特性と移動イスの組み合わせについて - ○山口高志, 三浦金作, 土方吉雄
- ・公園における移動イス設置方法に関する研究 - その6 移動イス置場密度による移動イス利用実態 - ○薄井良佳, 土方吉雄, 三浦金作, 佐々木基
- ・北口本宮富士浅間神社の享保期における境内整備と郡内大工について ○佐々木基, 土方吉雄, 三浦金作, 薄井良佳

- ・International Conference on COMPOSITES/NANO ENGINEERING (ICCE-23) 日時：平成27年7月12-18日 会場：Cheng Du, China
- ・NONLINEAR BENDING OF FUNCTIONALLY GRADED EULER-BERNOULLI BEAMS BASED ON PHYSICAL NEUTRAL SURFACE ○Buntara S. Gan and Nguyen Dinh Kien
- 第12回日本・韓国建築材料施工Joint Symposium 日時：平成27年7月17-18日 場所：日本大学生産工学部
- ・ビニロン短繊維及び微細繊維を併用した繊維補強ポーラスコンクリートの曲げ性状 ○齋藤俊克, 出村克宣
- International Conference on Civil, Architectural, Structural and Constructional Engineering 日時：平成27年8月21-23日 会場：Busan, South Korea
- ・Effect of high volume fly ash on the chloride penetration resistance of self-compacting concrete (SCC) ○Wibowo, S. As'ad, S.A. Kristiawan, B.S. Gan and D.P. Sitompul
- The 5th International Conference of Euro Asia Civil Engineering Forum (EACEF5) 日時：平成27年9月15-18日 会場：Surabaya, Indonesia
- ・NONLINEAR BENDING OF FUNCTIONALLY GRADED EULER-BERNOULLI BEAMS BASED ON PHYSICAL NEUTRAL SURFACE ○Buntara S. Gan, Han Aylie and M. Mirza A.P.

- 日本造園学会東北支部第15回支部大会 日時：平成27年10月24-25日 会場：東北公益文科大学大学院鶴岡キャンパス（山形県）
- ・須賀川市における歴史的なまち資源を活用したまちづくり - 須賀川産赤瓦の活用事例 - ○市岡綾子
- コロキウム構造形態の解析と創生2015 日時：平成27年10月29-30日 会場：建築会館ホール
- ・Evolutionary Ant Colony Optimization (EACO)の提案 - トラストポロジー最適化問題への応用について - ○原崇太, Buntara S. Gan
- 第42回セメント・コンクリート研究討論会(郡山) 日時：平成27年10月30日 場所：日本大学生産工学部
- ・ビニロン繊維補強ポーラスコンクリートの調合設計法 ○齋藤俊克, 出村克宣
- International Multi-Conference on Engineering and Technology Innovation 2015 日時：平成27年10月30日-11月3日 会場：Kaohsiung, Taiwan
- ・The influence of concrete compression strength gradation to the behavior of an element ○Han Aylie, Buntara S. Gan, M. Mirza Abdillah Pratama
- 第74回日本公衆衛生学会総会 日時：平成27年11月4-6日 会場：長崎ブリックホール（長崎県）
- ・在宅支援ニーズの多角的具体的把握方法2 - 継続的支援者による見取り図作成方法の検討 - ○鈴木晃
- 3rd International Conference on Rehabilitation and Maintenance in Civil Engineering 日時：平成27年11月19-21日 会場：Solo, Indonesia
- ・Friction-type Seismic Isolation Device of Steel Pile Foundation in Shaking Table Tests and Its Numerical Simulations ○Buntara S. Gan, S. Nakamura, N. Sento and K. Ito
- ・Inclusion-to-specimen Volume Ratio Influence on the Strength and Stiffness Behaviors of Concrete: an Experimental Study ○Han Aylie, Buntara S. Gan, Rudi Yuniarto, Anastasia Yesica and Rakhma N. Editia
- ・Numerical Investigation of Flexural Behavior of RC Beam Using Graded Concrete ○Hardi Wibowo, Sholihin As'ad, Buntara S. Gan and Han Aylie
- The 8th International Structural Engineering and Construction Conference 日時：平成27年11月23-28日 会場：Parramatta, NSW, Australia
- ・Free Vibration of Linearly Tapered Timoshenko Beam Using Consistent Shape Function ○Huong Thanh Trinh, Kien Nguyen Dinh, T. Hibino and Buntara S. Gan
- ・Aggregate Multi-Inclusions Interaction and Interface Influence on Concrete Compression Behavior ○Aylie Han, Buntara S. Gan and Yanuar Setiawan
- ・Tabu Search Algorithm for Optimizing Pile Foundation Layout on Footing of Residential House ○Takahiro Hara and Buntara S. Gan

## 学 術 論 文

\* 届け出があった記事を掲載

- ・渡辺幸幸, 齋藤俊克, 出村克宜, 「塩化物イオン固定化材混入ポリマーセメントモルタルの基礎的性質」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1177-1182, June 2015. (コンクリート工学年次大会2015)
- ・上野拓, Sanjay PAREEK, 「自己修復システムによる超弾性合金を用いたRC梁部材の開発」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1309-1314, June 2015 (コンクリート工学年次大会2015)
- ・尾形雅人, Sanjay PAREEK, 「自己修復システムを付与したモルタルの鉄筋腐食に対する抵抗性の検討」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1315-1320, June 2015 (コンクリート工学年次大会2015)
- ・我喜屋宗満, 齋藤俊克, 出村克宜, 「竹補強ポリマーセメントモルタルの曲げ性状」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1363-1368, June 2015. (コンクリート工学年次大会2015)
- ・鈴木裕介, Sanjay PAREEK, 「遮蔽コンクリートの損傷度と性能劣化の定量化に関する基礎的研究」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1477-1482, June 2015 (コンクリート工学年次大会2015)
- ・五十嵐祐太, Sanjay PAREEK, 「インド産及び日本産FAを用いたジオポリマー硬化体の養生条件及びスラグ置換率が圧縮強度に及ぼす影響」, コンクリート工学年次論文集, Vol.37, No.1, pp.1885-1890, June 2015 (コンクリート工学年次大会2015)
- ・尾形雅人, Sanjay PAREEK, 「エポキシ樹脂により修復を行ったコンクリートひび割れにおける超音波試験機を用いた修復性の評価」, コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集 Vol.5, pp.97-102, Sep.2015
- ・TRINH Thanh Huong, Takumi HIBINO, Buntara S. GAN, "Consistent Shape Function for Free Vibration of Linearly Tapered Timoshenko Beam Element", 日本大学工学部紀要 第57巻第1号, pp.7-14, Sep.2015
- ・原崇太・Buntara S. Gan, 「双方向進化型構造最適化法の概念を導入したAnt Colony Optimizationの提案-構造最適化問題におけるトラス構造最適化への応用について」, 日本大学工学部紀要, 第57巻第1号, pp.35-41, Sep.2015
- ・日比野巧, 浅里和茂, 「既存屋内運動場におけるはり継手補強ディテールの検討」, 日本大学工学部紀要, 第57巻第1号, pp.44-50, Sep.2015
- ・日比野巧, 千葉正裕, 「細長い平面形を有する建物における耐震補強効果の検討-1方向補強時の立体振動性状-」, 日本大学工学部紀要, 第57巻第1号, pp.51-59, Sep.2015
- ・Sanjay PAREEK, Ryuichi SEKINE, Hideki YOSHIOKA, Tetsuya HAYAKAWA and Takafumi NOGUUCHI, 「Reaction to Fire Performance of Sandwich Panels with Hole and Slit as Defects」, 10th Asia-Oceania Symposium on Fire Science and Technology, pp.23-24, Oct. 2015
- ・Sanjay PAREEK, 「A novel technique for self-repair of cracks of reinforced concrete structures」, International Conference on Concrete Repair, Rehabilitation and Retrofitting (ICRRR), pp.312-316, Oct.2015
- ・Buntara Sthenly Gan, Jingyao Zhang, Dinh-Kien Nguyen, Eiji Nouchi, "Node-based genetic form-finding of irregular tensegrity structures", Computers & Structures, Elsevier, Vol. 159, pp.61-73, Oct.2015
- ・浦部智義, 上野佳奈子, 太田亮平, 遠藤安泰, 山口敏弥, 中山誠健, 「診察室と医局を中心とした病院空間に対する医師の評価に関する研究-地方の大規模病院に勤務する医師を対象とした調査研究-」, 日本建築学会 地域施設計画研究論文集 (33巻), pp.143-148, Dec.2015
- ・浦部智義, 渡邊洋一, 高木義典, 「劇場・ホールを持つ施設の公演時における施設内 オープンスペースに関する調査研究-ホワイエを開放している公立文化施設を対象として-」, 日本建築学会 地域施設計画研究論文集 (33巻), pp.149-154, Dec.2015
- ・久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 浦部智義, 小林拓也, 「福島第一原発事故被災者の住宅・生活再建プロセスに関する研究-住情報支援の視点から-」, 日本建築学会住宅系研究報告, pp.81-86, Dec.2015

■**土方准教授**は、6月1日、福島県より、福島県景観審議会委員を依頼された。

■**速水教授**は、6月13日、NPO法人西山外三記念すまい・まちづくり文庫等共同主催による講演会「安心な住まいとまちをささえる『建築家と建築士』の役割とは」において、『建築家と建築士 一法と住宅をめぐる百年』著者と語る」と題して講演された。

■**浦部准教授**は、7月9日、平成27年度サステナブル地域づくりフォーラムにおいて『拠点づくりからはじまるサステナブルな地域づくり』と題して講演された。

■**齋藤助教**は、7月14日、コンクリート工学年次大会2015(千葉)の生セミナーにおいて全体司会を担当された。

■**出村教授**は、7月15日、リフリー工業会東北支部30周年記念講演会において「鉄筋コンクリート構造物の維持管理と長寿命化」と題して講演された。

■**土方准教授**は、8月5日、喜多方市より、喜多方市都市計画審議会委員を再度委嘱され、会長に選出された。

■**浦部准教授**は、8月5日に発売された住宅雑誌『Replan福島』に、『福島で心地よく暮らすために(福島も冬のことを考えよう/気候の特徴を生かす窓の計画/自然の恵みと暮らす)』を寄稿された。

■**速水教授**は、8月22日、工学院大学主催、家づくり学校 特別公開講座2015において、「建築設計者のアイデンティティとは何か」と題して講演を行った。

■**浦部准教授**は、8月24日、第1回銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会において『学校建築の現在を考える』と題して講演を行い、9月28日に同会アドバイザーに委嘱された。

■**鈴木教授**は、8月25日、平成27年度全国保健師教育機関協議会第1回関東甲信越ブロック会議において、「住まいと住み方、

リアルニーズへのアプローチ-保健師教育への期待」と題して招待講演を行った。

■**森山教授**は、9月15日、建築設備と昇降機第117巻に、「日本とヨーロッパの排煙設備の仕様」と題し寄稿された。

■**浦部准教授**は、9月26日、「平成27年度中高層建築物等の担い手育成事業 木材・木造建築に係る連続講座」において、『地域の施設と木造建築』と題して講演を行った。

■**浅里教授**は、9月、福島県建築安全機構が主催する「高校生が参加する地域防災授業」の一環として「地震のメカニズム」と題する講義を、福島工業高等学校、郡山北工業高等学校、会津工業高等学校の県内3工業高等学校で行った。

## 教室ニュース

■**浦部准教授**と**浦部研究室**が係わった、『中山間地における集会所とまちづくり活動 [地形舞台-中山間過疎地域に寄り添う茅葺き集会所と舞台を起点とするまちづくり活動-]』と『木質構法を用いた復興住宅モデル [小規模コミュニティ型木造復興住宅技術モデル群-希望ヶ丘プロジェクト-]』が2015年グッドデザイン賞を受賞した。

■**パリーク准教授**は、9月、カタール共和国のカタール大学及びBath University, UKにおいて、「SELF-REPAIR OF CRACKS BY NETWORK SYSTEM FOR RC STRUCTURES UNDER REPEATED LOADING」と題して招待講演を行った。

■**土方准教授**は、10月1日、白河市より、白河市景観審議会委員を委嘱され、会長に選出された。

■**森山教授**は、10月6日、(一財)日本建築防災協会が主催する特殊建築物等調査資格者講習で講師を務められた。

■**浦部准教授**は、10月9日、平成27年度第1回福島県土木・建築技術懇談会にて『拠点づくりからはじまる地域づくり』と題して講演された。

■**市岡専任講師**は、10月9日、福島県より、福島県における復興記念公園のあり方検討有識者会議委員を委嘱された。

■10月23日、日本建築家協会(JIA)主催第19回東北建築学生賞で、14校15学科応募総数40作品中、**神子小百合君**(浦部研・3年)と**大友勝多君**(浦部研・4年)の作品が受賞された(p5参照)。

■10月30日、第42回セメント・コンクリート研究討論会(郡山)が本学部で開催され、**出村教授**は実行委員長、**パリーク准教授**及び**齋藤助教**は幹事を担当された。

■10月31日、建築施工IIの授業の一環として、(仮称)ふくしま国際科学医療センターD棟工事現場見学会が開催され、3年生26名が参加した。

■**西潟健人君**(市岡研・4年)は、11月7日、毎日新聞社主催第1回学生住宅デザインコンテストでHINOKIYA賞を受賞し、表彰された。

■**土方准教授**は、11月19日、いわき市より、いわき市景観審議会委員を委嘱され、会長に選出された。

■**土方准教授**と**浦部准教授**は、11月27日、富岡町より、富岡町災害公営住宅整備事業(第1期分)事業者選定に係るプロポーザルの審査委員を委嘱された。また**土方准教授**は、委員長に選出された。

■**叙勲** ■平成27年春の叙勲にて、本学科出身で福島県内工業高校の教員として、県内の工業教育と後輩育成に永年ご尽力された**関根敏次先生**(元福島県立福島工業高等学校長)が瑞宝小綬章を受賞された。